

8/17 未複

首相、核先制不使用に反対

政府高官、米側伝達認めぬ

【ワシントン＝島田峰隆】米紙ワシントン・ポスト15日付は、オバマ米大統領が検討している核兵器の先制不使用宣言について、安倍晋三首相が「抑止力を弱める」として反対する意向を伝えていたと報じました。複数の米政府高官の話としています。

語り、反対している国々を批判しました。

同紙は「やりわけ日本は、もしオバマ氏が先制不使用を宣言すると、北朝鮮のような国々への抑止力を弱めることになり、紛争の危険が高まる」と考えている。安倍晋首相は最近、ハリス米太平洋軍司令官にこのメッセージを直々伝えたとしています。

核兵器問題に取り組む米同紙は安倍晋首相とハリス司令官の面談の日付を記載していませんが、日本外務省の発表によれば、7月26日に約25分間、訪日中のハリス司令官の表敬訪問を受け、北朝鮮のミサイル発射問題などで意見交換したとしています。

国も核兵器を先制使用しないようとする国際規範をつくることに関心がある」と

バマ大統領が来年一月の任期終了までに、核軍縮に向けた一連の政策転換を図ることを検討していると報道されました。核兵器の先制使用宣言、核実験を禁止する国連安保理決議の採択、核兵器予算の削減などが議論されているとしていま

被爆国の首相にあるまじき姿勢

原水爆禁止日本協議会の会をはじめ国際政治で繰り返し確認されており、核兵器の使用が許されないのは当然です。しかし、「抑止力」を理由に、核兵器の使用を正当化する安倍首相の態度は、安全の保証も、国民の願いにも逆行しています。

時事通信によれば、日本政府関係者は16日、オバマ大統領が検討している機械兵器の先制不使用宣言に反対する立場を米政権に伝えたことを明らかにしました。

安倍首相は、広島と長崎名選の平和式典で「核兵器のな

いよ重要となつてあり
名運動の前進に全力をあげ
ます。

日本政府がこうした立場を伝えたのは、オバマ政権内での先制不使用宣言の検討が報じられた7月以降。政府高官は、「抑止力にならない」核の傘に穴が開き、日米同盟の否定にならる」との立場を示しました。